

加賀逆立ち狛犬

滝本やすし

資料作成：令和7年5月9日



はじめに

神社の参道狛犬の設置率は全国平均で60%ほどといわれるが、北陸地方は設置率が高く、多くの地域で80%を超えている。石川県加賀地方には全国的にも珍しい、後ろ足を高く蹴り上げた狛犬が多数みられる。加賀逆立ち狛犬は金沢逆さ狛犬とも称され、加賀地方北部を中心に石川県内に数多くみられる。そのほとんどは神社の参道に設置されているが、参道から外れているものや、拝殿内に置かれているものもみられる。また寺院参道にも作例が確認される。以前から逆立ち狛犬の写真を撮影していたが、詳細な調査は行っていなかった。今回の調査は令和7年1月から5月までであるが、冬季間の積雪などで思うように進まなかった。一部については再調査できず、10年以上前の状況をそのまま報告している。掲載写真も以前に撮影したものが含まれている。精査していないので実数を確定できないが、暫定数として現存する参道狛犬が116対、4対の廃棄を確認している。また、参道狛犬以外の特例もいくつかみられる。少数であるが、富山県内や福井県内にも逆立ち狛犬が確認される。加賀逆立ち狛犬はいつ頃から作られ、どのように発展してきたのであろうか。

逆立ち狛犬の分布

石川県内旧市町村別の逆立ち狛犬の造立数をみてみよう。石造参道狛犬のみの集計であり、一部の特例は除外している。また新しい狛犬が再建された際に廃棄された以前の古い狛犬も集計に加え、再建された新しい狛犬が逆立ち狛犬の場合は合わせて集計に加えた。旧富来町1対、七尾市1対、旧鹿島町1対、羽咋市1対、旧宇ノ気町1対、津幡町3対、金沢市40対、野々市市14対、旧松任市27対、旧美川町2対、旧鶴来町6対、旧河内村2対、川北町1対、旧辰口町9対、旧寺井町3対、旧根上町1対、小松市5対、加賀市2対で、石川県内で確認される逆立ち狛犬の総数は120対である。このうちの七尾市の1対のみが寺院であり、他は全て神社に造立されている。また旧鹿島町の1対と加賀市の1対は、加賀逆立ち狛犬とは別系統のものとみられる。

富山県内の逆立ち狛犬は、尾田武雄氏によって5対が報告されている。福井県内の逆立ち狛犬は旧芦原町の1対のみしか確認していないが、嶺南は未調査であり、他にもあるのだろうか。富山県内の1対は加賀逆立ち狛犬とは別系統のものとみられ、福井県内のものも加賀逆立ち狛犬との関連は不明である。

初期の作例

在銘最古の逆立ち狛犬は、金沢市天神町椿原天満宮にみられる。左側が呷形で、右側が逆立ちする阿形である。後ろ足を上に高く上げる一般的なスタイルとは異なり、ほぼ水平に後ろへ突き出した形である。石材は赤戸室石、自然石の台座も同じく赤戸室石で、石積の基壇は再建されたものである。再建された基壇には、もとの基壇から切り取られた石板がはめ込まれている。これには「安政六己未年／八月吉日／石工／松田七左エ門」と刻まれている。江戸時代の銘が確認される唯一の逆立ち狛犬である。なお令和6年元日の能登半島地震によって左側の基壇が崩落し、呷形が足座と共に転落、銘が刻まれている石板も落下した。右側の基壇も損傷しており、阿形も転落しそうである。

在銘2番目に古い逆立ち狛犬は、金沢市西念出雲神社にあった。椿原天満宮の狛犬と同様の構成で、狛犬は笏谷石とみられ、自然石の台座と基壇最上部は赤戸室石であった。幾度も台座から転落したようで、損傷が激しかった。令和元年に花崗岩製の新しい狛犬が奉納され、その際に石材店によって引き取られ廃棄された。拝殿右手前に基壇の最上部のみが残されており、「奉」「納」「明治五季八月／若連中」と刻まれている。石工名は確認できない。なお再建された狛犬は花崗岩製で、一般的にみられる金沢型の逆立ち狛犬である。

金沢市東御影町卯辰神社に、上記2例と同様の構成の逆立ち狛犬がみられる。狛犬は笏谷石とみられ、左側の呷形の黒い台座は滝坂石、右側の阿形の黒い台座は浅間石であろうか。基壇は赤戸室石である。基壇最上部正面に「奉納」と大きく刻まれ、側面に「問屋附魚屋中」「石工／油屋佐兵工」と刻まれている。基壇に多くの人名が刻まれているが、苗字はなく全て屋号である。年号はどこにも刻まれていないようだ。卯辰神社は慶応3年、兼六園内にあった竹沢御殿の天満宮が現在地に遷座された。境内の灯籠などに慶応3年銘がみられることから、この狛犬も現在地に遷座された際に作られたと考えられる。慶応3年の造立であれば西念出雲神社の逆立ち狛犬よりも古く、椿原天満宮の狛犬に次ぐ古い作例である。なお令和6年元日の能登半島地震によって右側の逆立ちする阿形が台座から転落した。それまでに幾度も転落したのでであろうか、震災前にすでに破損個所がみられた。

上記3例が加賀逆立ち狛犬の原型と考えられる。しかし加賀逆立ち狛犬の多くは、左側の阿形は逆立ちせず、右側の呷形は後ろ足を上に高く上げている。

不安定な自然石の台座もみられない。この一般的によくみられる金沢型の逆立ち狛犬はいつ頃から作られたのであろうか。

金沢型の狛犬の初期の作例を紹介する前に、原型を継承したと考えられる金沢市東蚊爪町須岐神社の狛犬をみてみたい。左が逆立ちする阿形で、右が逆立ちしない吽形である。狛犬の足座は一体成型であるが、阿形の後ろ足はほぼ水平に後ろへ突き出している。狛犬は青戸室石、台座は赤戸室石、基壇は再建されたコンクリート製である。吽形の台座正面に「奉納」、裏面に「明治十九年／東蚊爪村／…當連中／(人名 8)」と刻まれ、阿形の台座正面に「奉納」、裏面に「(人名 9)」と刻まれている。石工名はどこにも刻まれていないようだ。本嶋宮司によると須岐神社が現在地に遷座されたのはちょうどこの狛犬が造立された頃で、当時は河北郡東蚊爪村であった。原型を継承したと考えられる唯一の作例で、準原型と称したい。

一般的によくみられる金沢型の逆立ち狛犬で最も古い年号が確認されるものは、金沢市増泉春日神社の拝殿入口のすぐ脇に置かれている。参道から移転されたものと思われ、基壇は残されていない。石材は滝ヶ原石とみられる。阿形と吽形の台座の銘文は同じで、「奉納」「鰐甚／吉野谷」「明治十五年九月」と刻まれている。石工名は基壇に刻まれていたのであろうか、確認できない。「鰐甚」と刻まれているが、これは宝暦2年創業の金沢市最古の料亭であるつば甚と考えられる。この狛犬は加賀地方北部に数多くみられる金沢型の初出とみられる。東蚊爪町須岐神社の準原型の狛犬よりも古く、一般的によくみられる金沢型が早い時期に作り始められたことがうかがえる。

明治20年および明治21年に造立された逆立ち狛犬は1対も確認されないが、明治22年から明治24年までに造立されたものが5対みられる。これらは全て金沢型である。

金沢市寺町諏訪神社の狛犬は、台座や基壇を含む全てが滝ヶ原石とみられる。台座の正面に大きく「奉納」、側面に「大窪利兵衛／山川七右エ門／鰐甚平」「明治二十二年四月」、裏面には「石工／由野伊三郎／荒谷善太郎」と刻まれている。「鰐甚平」とあるので、この狛犬の奉納についても料亭つば甚が関与していたようである。つば甚は諏訪神社の近くであり、由野伊三郎はそのすぐ先にある由野石材店の前身と考えられる。

金沢市南新保町八幡神社の狛犬は笏谷石とみられ、台座と石積みの基壇は赤

戸室石である。2体の台座正面に大きく「奉納」、側面に「寄附人／(人名各5)」
「明治廿三年九月建」と刻まれている。石工名はどこにも刻まれていないよう
である。

金沢市本多町石浦神社の境内摂社広坂稲荷神社の狛犬は、台座や基壇を含む
全てが笏谷石のようである。畔形の足元に彫られた巻物に「奉納」、阿形の足元
に彫られた巻物に「奉納／(人名4)」と刻まれている。そして巻物の軸部に
「石工／福嶋伊之助」と刻まれているが、これは後刻とみられる。幾層にも積
み重ねられた基壇に「明治二十四年四月」および多くの人名が刻まれている。
基壇2層目の最後列に「石工／福嶋伊之助」と刻まれており、これが伊之助の
本来の刻銘であろう。

金沢市城南藤棚白山神社の拝殿内に逆立ち狛犬がみられる。参道に新しい狛
犬が奉納された際に拝殿内へ納められたもので、基壇は残されていない。石材
は滝ヶ原石とみられ、拝殿の隅に窮屈に納められている。台座正面に「奉納」、
裏面に「明治廿四年／井波六三郎／浅田初三郎」「(人名15)」と刻まれている。
石工名は基壇に刻まれていたのであろうか、台座には確認できない。

野々市市矢作藤岡諏訪神社に、石工松田外三郎による明治24年造立の逆立
ち狛犬があった。金沢型で、台座や基壇を含む全てが滝ヶ原石のようであった。
野々市市内最古の逆立ち狛犬で、子狛を伴う逆立ち狛犬の初出であった。平成
26年に新しい花崗岩製の狛犬に建て替えられ、その際に廃棄されてしまった。
建て替えられた狛犬も金沢型である。

さらに明治25年から明治33年までに造立された逆立ち狛犬が10対確認
される。この頃になると、金沢型とは手法が異なるものが造立され始めた。

白山市北島町加茂神社の狛犬は、台座や基壇を含む全てが滝ヶ原石のよう
である。台座に「奉」「納」「若連中／美川町／石工新谷多吉」「明治廿五年／九月
中旬」と刻まれている。白山市の石工による初の作例で、金沢型を継承しつつ
独自の個性がみられる準金沢型である。

金沢市東山宇多須神社の狛犬は笏谷石とみられ、5層に積み重ねられた台座
も同じく笏谷石で、石積の基壇は赤戸室石であろうか。台座の最上層に「奉納」
「明治二十七年五月」と刻まれ、台座3層目の裏面に世話人名が刻まれている。
台座最下層の裏面にも多くの人名が刻まれ、最後列に「石工／福嶋伊之助」と
刻まれている。

野々市市下林薬師日吉神社の狛犬は、台座や基壇を含む全てが笏谷石であろうか。3層に積み重ねられた台座最上層に「奉納」「明治二十八年十月」「紀元二千五百五十五年秋祭」と刻まれ、2層目に「若連中」と多くの人名が刻まれている。最下層部に「石工／福嶋伊之助」と刻まれている。

金沢市打木町打木濱神社の狛犬は、台座や基壇を含む全てが滝ヶ原石であろうか。3層に積み重ねられた台座2層目正面に「奉納」、裏面に「明治二十九年九月建之」と刻まれている。台座最下層に「明治廿七八年／■■■紀念」および軍人10名や世話人など多くの人名が刻まれており、裏面の隅に小さく「石工／瀬川市良平」と刻まれている。明治27年～28年の日清戦争の勝利凱旋を記念して造立されたのであろうか。金沢型。

小松市三谷町白山神社の境内摂社神明社の狛犬は滝ヶ原石とみられ、台座も同じく滝ヶ原石であろうか。また2層に積み重ねられた基壇は、鵜川石のようである。台座正面に「奉納」と刻まれ、裏面には多数の文字が刻まれているが「明治三十年／九月建之」以外は判読困難である。白山市美川鹿島町鹿島神社に明治34年造立のよく似た狛犬があり、同じ石工の作とみられる。この年代になると、加賀地方南部でも地元の石工によって逆立ち狛犬が作られるようになってきた。加賀地方南部の石工による逆立ち狛犬は金沢型とは趣が異なり、準金沢型にも属さない発展型である。

白山市吉田町神田神社の狛犬は、台座や基壇を含む全てが滝ヶ原石のようである。台座に「奉納」「寄附人(人名2)」「明治三十年西九月建之／寄進」「美川町／職工／新谷多吉」および多くの人名が刻まれている。準金沢型である。

白山市倉部八幡神社の狛犬は、台座や基壇を含む全てが笏谷石であろうか。台石側面に「奉納」「明治三十一年九月」と刻まれている。幾層にも積み重ねられた基壇の上層部裏面左隅に、かすかに「福嶋…」の文字が読み取れる。基壇上層部に世話人等の多くの人名が刻まれ、その最後列に伊之助が自身の名前を刻んだのであろう。

能美市宮竹日吉神社の狛犬は笏谷石とみられ、台座も同じく笏谷石であろう。基壇は新しく作り直された花崗岩製である。台石側面に「奉納」「明治三十一年十月」と刻まれている。裏面に「若連中」、左隅に小さく「石工／福嶋伊之助」と刻まれている。

小松市今江町今江春日神社の逆立ち狛犬は、台座や基壇を含む全てが笏谷石

と思われる。2体の台座正面に「奉納」と刻まれ、畔形の台座裏面には「今江春日神社高麗狛犬■久■村有志発起募■於在外移住者大金之■修明治卅有三六月■吉辰敬納之神前石工金沢人福島伊之助寶督之／明治卅三年六月」と刻まれている。

金沢市の市街地から遠く離れた山間部の折谷町磯崎神社に、金沢型の逆立ち狛犬がみられる。台座や基壇を含む全てが滝ヶ原石であろうか。2体の台座の正面に「奉納」、側面に「栗山徳三郎」と刻まれている。畔形の台座側面には、さらに「明治三十三年」と刻まれている。石工名は刻まれていないようだ。

これらの他に白山市村井町本村井神社と白山市末正町春日神社の狛犬が明治30年頃に造立されたのではないと思われる。徐々に金沢型以外の逆立ち狛犬の造立も増え始め、大正時代末頃には金沢型はほとんど造立されなくなった。

加賀逆立ち狛犬の石工

石工名が刻まれているものは全体の半数余りである。このうちの6割以上を福嶋伊之助(金沢)、福嶋伊三次(金沢)、相森幹太郎(松任＝白山市)の3名で占める。この3名はそれぞれ10対以上の作例が確認され、自身の名前を刻んでいないものもいくつかあるとみられることから、加賀地方北部の逆立ち狛犬の7割以上がこの3名の作であろう。また、由野伊三郎(金沢)、山田興六(金沢)、吉田仁三郎(安吉＝白山市)、新谷多吉(美川＝白山市)、川端作松(宮竹＝能美市)の石工名が2対の逆立ち狛犬に確認される。そして1対のみに名前が刻まれている石工は10名余りである。石工名が確認できないものについては、剥落したものや、修復の際に刻銘部分が失われたものもあるようだ。

由野伊三郎、松田外三郎、福嶋伊之助、福嶋伊三次、瀬川市良平、石林又…、山本勇作による逆立ち狛犬は手法に共通点がみられることから、これらを総じて金沢型と称したい。石工名を確認できない金沢型の狛犬もみられるが、そのほとんどが上記の石工によるものであろう。金沢の石工集団(子弟や仲間)として互いに密接な関係であったことがうかがえる。

山田興六、新谷多吉、八野甚吉郎、ニシダ、中奥市郎、川端作松、石野による逆立ち狛犬は金沢型に近いが、各々の石工の個性が出ている。金沢型を継承しつつ、自身のスタイルを取り入れたのであろう。これらを総じて準金沢型と称したい。石工名を確認できない準金沢型の狛犬もいくつかみられる。

なお昭和8年造立の金沢石工神田嘉七の逆立ち狛犬がみられるが、金沢型と石材や手法に違いがみられる。大正末頃には金沢型狛犬は造立されなくなっており、金沢型の石工集団からの直接の継承はなさそうである。

由野伊三郎

由野伊三郎の銘が確認される逆立ち狛犬は明治22年造立の金沢市寺町諏訪神社と明治42年造立の白山市八田中町の2対のみであるが、この他に、先に紹介した明治15年造立の金沢市増泉春日神社、明治24年造立の金沢市城南藤棚白山神社、明治33年造立の金沢市折谷町磯崎神社の3対が由野の作ではいかと考えられる。由野は福嶋伊之助よりも早くから逆立ち狛犬の制作を始めており、金沢型逆立ち狛犬の先駆者ではないかと考えられる。また富山県南砺市安居の高野山真言宗安居寺境内の花山法皇像にも「石工金沢由野伊三郎」の銘が確認され、狛犬のみではなく幅広い制作を行っていたようである。

福嶋伊之助

福嶋伊之助の銘が確認される逆立ち狛犬は15対である。銘を確認できないが伊之助の作と思われる逆立ち狛犬が2対あり、推定総数は17対である。この他に尾田武雄氏によって富山県内で伊之助銘が刻まれた逆立ち狛犬2対が報告されている。これらを合わせると、伊之助の逆立ち狛犬の推定総数は19対である。

伊之助銘の最も古いものは金沢市本多町石浦神社の境内摂社広坂稻荷神社の狛犬で、明治24年造立である。また最も新しいものは白山市向島町八幡神社、南砺市広安平田社および白山市曾谷町乙劔神社の狛犬でいずれも大正2年造立である。制作期間も長いが、富山県高岡市福岡町から小松市までの広範囲に作例が確認される。伊之助の初期の作例は先に紹介したが、この他の作例をいくつか紹介したい。

伊之助の銘が確認される最も新しい南砺市広安平田社の逆立ち狛犬は、幣殿の両脇に置かれている。拝殿前の参道には2対の狛犬が奉納されており、この場所へ移されたものと思われる。台座や基壇を含む全てが淡青色凝灰岩であるが、笏谷石なのか滝ヶ原石なのかははっきりとしない。幣殿右側の狛犬は逆立ち型の吽形で、幣殿左側の狛犬は子狛を伴う逆立ちしない阿形である。2体の台座の銘は同文で、「奉納」「金澤／神能勇三郎」「大正二年／石工／福嶋伊之助」と刻まれている。

伊之助の銘が確認される最も新しい白山市曾谷町乙剱神社の逆立ち狛犬は、令和6年元日の能登半島地震によって基壇が崩落、台座と共に転落破損した。現在の狛犬と台座は、同年10月に再建されたものである。台座上部に「奉納」「大正二年十月」「青年團」「石工／福島伊之助」と刻まれており、台座下部に「令和6年1月1日能登半島地震災害／令和6年10月13日修復完了／石川石材商事(株)」と記された銘板が取り付けられている。滝ヶ原石に似た淡青色の石材であるが、人工石であろうか。伊之助の狛犬をもとに彫られているが、忠実には再現されていない。

白山市村井町本村井神社の狛犬は、台座や基壇を含む全てが笏谷石のようである。台座正面に大きく「奉納」と刻まれ、側面に「発起人(人名4)」および世話人とみられる人名が多数刻まれている。年号はどこにも刻まれていないようだ。5層に積み重ねられた基壇の2層目側面の隅にかすかに「福島」の文字が読み取れるが、不自然さが感じられ、後刻と思われる。しかしこの狛犬は、その手法から伊之助の作ではないかと考えられる。

福島伊三次

福島伊三次の銘が確認される逆立ち狛犬は12対である。銘を確認できない逆立ち狛犬で伊三次の作と思われるものはなさそうである。

伊三次銘の最も古いものは津幡町杉瀬八幡神社の狛犬で、大正3年造立である。伊之助銘の最も新しい狛犬は大正2年造立なので、その翌年に伊三次へと引き継ぎされているが、技術継承については長期間であったと考えられる。伊三次銘の最も新しいものは金沢市御供田町住吉神社の狛犬で、大正11年造立である。期間は短いですが、津幡町から能美市までの広範囲に作例が確認される。

伊三次銘の最も古い津幡町杉瀬八幡神社の狛犬は滝ヶ原石とみられ、台座も滝ヶ原石、基壇は改修されたものである。2体の台座に「奉納」「友禅染業／奥村久次郎／大阪西成郡豊崎町本庄」「大正三年四月／石工福島伊三次」、基壇に「世話人山崎宗右エ門」「平成三年四月改修杉瀬■」と刻まれている。

金沢市浅野本町浅野神社の狛犬は滝ヶ原石とみられ、台座も滝ヶ原石、基壇は赤戸室石である。2体の台座に「奉納」「大正三年九月」と刻まれ、基壇には多くの人名が刻まれている。この台座は2層の上部のみで、台座下層は手前の地面の上に置かれている。台座下層側面に「浅野」、裏面に「石工福島伊三次」と刻まれている。

伊三次銘の最も新しい金沢市御供田町住吉神社の狛犬は、台座や基壇を含む全てが滝ヶ原石とみられる。台座に「奉納」「寄附人(人名4)」「大正十一年十一月／石工福島伊三次」と刻まれている。

金沢市末町日吉神社の狛犬は、台座や基壇を含む全てが滝ヶ原石とみられる。阿形の台座に「奉納」「大正十一年九月／青年團／金沢石工福島伊三次」、吽形の台座に「奉納」「石工福島伊三次／青年團／大正十一年九月」と刻まれている。これは御供田町住吉神社の狛犬のわずか2ヶ月前であり、短期間に次々と制作されたのか、奉納に合わせて早くから制作されていたのかは不明である。

相森幹太郎

相森幹太郎の銘が確認される逆立ち狛犬は20対である。銘を確認できないが相森の作と思われる逆立ち狛犬が3対あり、推定総数は23対である。加賀逆立ち狛犬発祥地の金沢から離れた松任で、名工といわれる福嶋伊之助よりも多くの逆立ち狛犬を制作されたのは驚きである。金沢型からの発展型である。

相森銘の最も古いものは白山市横江町宇佐八幡神社の境内摂社菅原社の狛犬で、大正3年造立である。そして最も新しいものは野々市市三日市町郷八幡神社の狛犬で、昭和14年造立である。制作期間は比較的長い、作例が確認されるのは旧松任市および野々市市周辺の狭い範囲がほとんどで、隣接する金沢市の西部と川北町に各1対がみられる。特に野々市市内では逆立ち狛犬の半数以上に相森の銘が確認される。また相森は逆立ちしない狛犬も制作されている。

白山市横江町宇佐八幡神社の境内摂社菅原社の拝殿の囲い内に窮屈に納められている狛犬は、台座や基壇を含む全てが滝ヶ原石とみられる。菅原社は明治40年に、西横江から現在地へ移築されている。この逆立ち狛犬は大正3年の造立であるが不自然なほど窮屈に納められており、もとは手前の参道に設置されていたのであろう。基壇の正面に「奉」「納」および多数の人名が刻まれており、最後尾に「相森幹太郎」の名前も刻まれている。基壇の側面に「大正三年」「二月吉祥」「石工／松任／相森」と刻まれている。奉納者の一人として相森幹太郎の名前が刻まれていることから、相森は横江在住だったのだろうか。

野々市市清金清金中宮神社の逆立ち狛犬は、台座や基壇を含む全てが滝ヶ原石とみられる。吽形の口は僅かに開いており、阿形の口は大きく開いていない。吽形の台座側面に「五香政吉」、阿形の台座側面に「本井宗次郎／西井加之次郎」と刻まれ、2体の台座裏面に「大正四年／奉納御即位記念」と刻まれている。

そして吽形の基壇裏面に「石匠／相森」と刻まれている。相森の逆立ち狛犬は流れるような美しい毛並みが特徴であるが、初期のものは耳回りや尾の毛並みが比較的シンプルである。

野々市市稲荷神社の逆立ち狛犬も、台座や基壇を含む全てが滝ヶ原石とみられる。阿形の台座側面に「昭和十年／三月吉日」、裏面には「東京／田中伊吉」と刻まれている。また吽形の台座側面に「平野伊一」、裏面には「石工松任相森」と刻まれている。相森の逆立ち狛犬は晩年になるにつれ、豪華で流れるような毛並みが美しい。

白山市八ツ矢町菅原神社の狛犬は滝ヶ原石とみられ、台座も滝ヶ原石で、基壇は再建された花崗岩製である。阿形の台座は失われており、直接基壇上に載せられている。阿形の基壇に「奉納」「平成八年五月再建／相森石材」、吽形の基壇に「平成八年五月再建」と刻まれている。相森石材とあり、幹太郎の後継者と考えられるが、当時この名前の石材業者があったことは確認できない。

相森の銘は確認できないが、相森の作と考えられる逆立ち狛犬が松任から離れた能美市荒屋町荒屋神社の拝殿の囲い内にみられる。以前から相森の作ではないかと考えていたのだが、お世話されている方からお話を伺うことができた。以前は拝殿前の参道に設置されていたそうで、昭和58年に新しい狛犬が奉納された際、現在の場所へ移されたという。拝殿の囲い内に置かれているのは狛犬の本体のみで、拝殿へ上る階段の下に台座が2つ納められている。この台座には文字は彫られておらず、廃棄された基壇に銘が刻まれていたと思われる。荒屋町は以前は徳久町の出町で、明治40年に旧荒屋神社は徳久の山上郷八幡神社に統合された。荒屋町に神社がなくなってしまったが、昭和21年、国鉄松任工場内にあった皇太神宮大麻奉安殿を移築し荒屋神社として再建された。現在の社殿は昭和53年に建て替えられており、国鉄松任工場の皇太神宮大麻奉安殿から移されたもので現存するのは御神体と逆立ち狛犬1対のみとのことである。国鉄松任工場に皇太神宮大麻奉安殿が建てられたのは昭和10年で、この狛犬はその際に造立されたと思われる。地元松任の石工相森に狛犬の制作を依頼したのであろう。小型の狛犬であるが、相森の狛犬の特徴である流れるような毛並みが美しい。2体共に顔面などの剥落が激しいのと、銘が刻まれていたと思われる基壇が失われているのが残念である。なお、新しく奉納された狛犬は逆立ちしないものである。

白山市四ツ屋町大靱和氣神社の境内摂社杉の宮の狛犬は滝ヶ原石とみられ、台座も滝ヶ原石で、基壇はコンクリート製のようなものである。2体の台座正面に「奉納」、裏面に「昭和十一年七月」と刻まれている。吽形の基壇正面に「上海事変變凱旋記念／勲八等長野吉雄」、阿形の基壇正面に「上海事変變凱旋記念／勲八等宮本文治」と刻まれている。石工名はどこにも刻まれていないが、この狛犬は間違いなく相森の手法である。

白山市安養寺町神田白山神社の狛犬は、台座や基壇を含む全てが滝ヶ原石とみられる。吽形の台座裏面に「大東亜戦争記念」、阿形の台座裏面に「昭和十九年三月」と刻まれている。石工名は刻まれていないが、その手法から相森の作と思われる。相森銘が刻まれている最も新しい逆立ち狛犬は昭和15年造立であるが、それ以降も制作を続けていたのであろう。なお、白山市八ツ矢町菅原神社の狛犬の再建された基壇に「平成八年五月再建／相森石材」と刻まれているが、幹太郎がこの年代まで制作を続けることは考えられないので、相森石材とあるのは幹太郎の後継者であろう。

その他の石工

山田興六、吉田仁三郎、新谷多吉、川端作松の銘が確認される逆立ち狛犬はそれぞれ2対みられる。山田興六は明治44年と大正14年、吉田仁三郎は大正10年と昭和10年、新谷多吉は明治25年と明治30年、川端作松は昭和2年と昭和3年である。山田興六の狛犬は金沢型。新谷多吉と川端作松の狛犬は金沢型に近いが、金沢型を継承しつつ自身の個性が出ている準金沢型である。吉田仁三郎の狛犬はさらに自身の個性が強く出ている。金沢型からの発展ではなく、金沢型を継承した準金沢型からの発展と考えられることから、準発展型と称したい。

新谷多吉の銘が確認される逆立ち狛犬は明治25年造立の白山市北島町北島加茂神社と明治30年造立の白山市吉田町神田神社の2対であるが、この他に造立年不明の白山市末正町末正春日神社の狛犬が新谷多吉によるものと考えられる。明治25年造立の狛犬は準金沢型の初出であり、金沢以外の石工による逆立ち狛犬の初出でもある。これ以前に造立されたことが確認される金沢型の狛犬は6対のみであり、早い時期に逆立ち狛犬が金沢以外の石工に継承されたことがうかがえる。金沢型を継承しつつ自身の個性もみられることから、金沢石工集団との直接の関係があったと考えられる。

かほく市内日角八幡社の逆立ち狛犬は花崗岩製で昭和8年造立、金沢の石工神田嘉七の銘が刻まれている。同じ昭和8年造立の金沢市桂町桂神社の狛犬は石材や手法が似ており、神田の作ではないかと考えられる。また金沢市普正寺町八幡神社の狛犬も花崗岩製であるが、材質が異なることや手法に違いがみられることから別の石工の作と考えられる。金沢型からの発展型であろう。

明治30年造立の小松市三谷町白山神社の境内摂社神明社と明治34年造立の白山市鹿島町鹿島神社の狛犬は石材や手法が似ており、同じ石工の作と考えられるが、いずれにも石工名は確認できない。石工の個性が強く出て、金沢型とは趣が異なる。金沢型からの発展型であろう。一覧表には石工Aと表記する。

明治39年造立の野々市市末松大兄八幡神社、明治44年造立の金沢市神野須天八幡神社、造立年不明の金沢市福増町八幡神社の3対の狛犬は手法がよく似ており、同一石工の作ではないかと思われる。どっしりとした重量感のある体型が特徴的である。石工の個性が強く出ており、金沢型とは趣が異なる。金沢型からの発展型であろう。一覧表には石工Bと表記する。

石工名の推測について

金沢型の初期の逆立ち狛犬で石工名が確認されないものがいくつかあるが、推測される石工については判断が微妙なものもある。金沢型のものは同一石工集団に属する石工によるものと思われ、各々の石工による造形の違いが少ないからである。

金沢型狛犬で石工名を推測できないものが4対あるが、大正10年から14年までの短期間の造立である。ちょうど金沢型狛犬が造立されなくなる時期であり、福島伊三次の晩年の作とも考えたが、作風に若干の相違が感じられる。これらの4対が同一石工の作なのか、それとも複数の石工の作なのかの判断も困難である。未知の石工の存在や、複数の石工による共同制作などの可能性も考えられる。これについては、さらに詳細な調査と考察を進めたい。

相森幹太郎と推測される3対の狛犬は、他の石工にはみられない相森独自の特徴がはっきりと出ており、この推測はほぼ間違いないであろう。

飛翔から逆立ちへ

加賀逆立ち狛犬の原型3対は、後ろ足を上に高く上げる金沢型とは異なり、不安定な自然石の台座上でほぼ水平に後ろへ足を突き出した形である。これは

逆立ちする姿ではなく、大空を滑空する飛翔獅子の姿と考えられる。

その後作られた金沢型の逆立ち狛犬は、火消しの加賀鳶にヒントを得たと考えられている。前田家の江戸屋敷にあった加賀鳶の38名が、明治2年に金沢へ移住してその技を伝承した。金沢型の初出は明治15年であり、年代的にみても加賀鳶由来説がうなずける。

金沢型逆立ち狛犬の初出である明治15年造立の金沢市増泉春日神社の狛犬の台座に「鰐甚」と刻まれ、それに次いで古い明治22年造立の金沢市寺町諏訪神社の狛犬の台座には「鰐甚平」の名前がみられる。鰐家は加賀藩前田家の鰐職人であったが、副業の日本料理を本業として料亭「つば甚」を開業した。加賀鳶に由来する逆立ちの姿を狛犬に取り入れたのは、前田家との関係が深い鰐家の発案ではないだろうか。そして鰐家の発案と思われる逆立ちスタイルの狛犬を最初に手掛けたのは、鰐家と同じ町に住む石工由野伊三郎であったことが考えられる。制作依頼者の意図に反して「石工が遊び心で彫った」とは考え辛い。

金沢石工集団による金沢型逆立ち狛犬は、個々の石工の個性による造形の違いがあまりみられない。石工同士の関係が強かったのであろう。金沢石工集団としての統一ブランドであったことも考えられるであろうか。

県外で奉納された加賀逆立ち狛犬

尾田武雄氏によって、富山県内に5対の逆立ち狛犬が報告されている。これらについても確認調査を行った。

先に紹介した南砺市広安平田社の逆立ち狛犬は、台座に「奉納」「金澤／神能勇三郎」と刻まれており、金沢在住の人によって奉納されたことがうかがえる。高岡市福岡町小野八幡宮の逆立ち狛犬も広安平田社と同じく福嶋伊之助の作であるが、同様の経緯があったのだろうか。

富山市八尾町高熊には八坂社と神明社があり、2棟の社殿が並んで建てられている。2社は別々の宗教法人として登録されている。神明社には御神体として観音が祀られており、観音堂とも称されている。入口には「大悲観音」と刻まれた石塔が建てられている。この神明社の拝殿手前に逆立ち狛犬が設置されている。台座や基壇を含む全てが滝ヶ原石のようである。基壇最上部に「奉納」「明治三十四年八月」「世話人／本多興七郎／布共又三郎／田中又五郎／高木治

郎三郎」「石川縣金澤市五寶町／石工近松二平刻」と刻まれている。五寶町は現在の笠市町で、本願寺金沢別院(西別院)がある。近松二平は主に別院の石造物を手掛けていたと思われるが、どのような関係でこの狛犬の制作を依頼されたのであろうか。

氷見市早借には速川神社と八幡宮がある。早借には稲荷社、白山社、日吉社もあったが、昭和4年に速川神社に合祀された。八幡宮は早加斯の領主岩田家の氏神を祀っていたことから岩田八幡宮と呼ばれていた。岩田家は後に加賀前田家の藩士となり、金沢へ移住した。関係は永らく途絶えていたが、明治35年の例祭に岩田家の当主が金沢から参拝され、その後多くの奉納物を供した。逆立ち狛犬もその中の1点である。狛犬と台座は滝ヶ原石のようである。石積基壇は再建されたものとみられ、近隣で産出される凝灰岩であろうか。台座に「奉」「獻」「明治三十六年九月建之」と刻まれており、岩田家の当主が参拝された翌年に奉納されている。八幡宮は岩田家の氏神を祀る社であったことから奉納者の名前は刻まれなかったのであろう。石工名も確認できないが、八尾町高熊神明社の狛犬と酷似しており、近松二平の作ではないかと考えられる。

なお氷見市園生神社の逆立ち狛犬については加賀逆立ち狛犬とは別の系統のものとみられ、次項に記述する。

加賀逆立ち狛犬に属さないもの

氷見市園生神社と中能登町二宮天日陰比咩神社の逆立ち狛犬は、左右共に逆立ちしている。園生神社の狛犬の足座に「奉納」「上野菊松」と刻まれているが、他に銘文は確認できない。天日陰比咩神社のものは全く無銘である。石材や手法なども加賀逆立ち狛犬と異なり、加賀逆立ち狛犬とは無関係の別系統のものとみられる。これら2例は造形も似ており、いずれも石動山麓であることから同系統のものと思われる。加賀市勅使町白山神社の逆立ち狛犬は1体のみが逆立ちしているが、石材や手法などは加賀逆立ち狛犬と異なり、こちらも加賀逆立ち狛犬とは別系統のものとみられる。上記3例は他に同様の作例がみられず、造立年代も不明である。

明治36年造立のあわら市牛山神明神社の逆立ち狛犬も、2体共に逆立ちしている。造形的には上記3例よりも加賀逆立ち狛犬に近いが、他に類例がみられない。加賀逆立ち狛犬との関連は不明である。

加賀逆立ち狛犬の石材

逆立ち狛犬の大多数を占める石材は淡青色凝灰岩であるが、福井市で産出される笏谷石や小松市で産出される滝ヶ原石などが混在しているようである。

逆立ち狛犬が多く作られた明治時代後半から昭和戦前にかけて、滝ヶ原では10ヶ所以上の石切丁場が稼働し量産されていた。笏谷石も滝ヶ原石も、加工されていない石材のまま北加賀方面へ送られていた。良質な滝ヶ原石は見た目だけでは笏谷石との区別ができないほどであることから、高価な笏谷石から比較的安価な滝ヶ原石へ切り替わりが進んできた時代である。したがって個々の狛犬については、石材の産地を特定できないものが多い。個別に帯磁率測定を行えばかなり高い確率で産地を判別できるであろう。

加賀逆立ち狛犬は金沢発祥であるが、白山市平野部や能美市の石工への伝承がみられる。これは、石材が笏谷石から滝ヶ原石へと切り替わってきたことが大きな要因であろう。笏谷石は福井から宮腰(現在の金沢市金石)へ海上輸送されたが、滝ヶ原石は小松から金沢市街へ陸上輸送された。ちょうど滝ヶ原石の流通が増え始めた頃に、搬送ルート周辺の石工に逆立ち狛犬の制作が広まった。福嶋伊之助や福嶋伊三次からの技術伝承と考えられる。

かほく市や金沢市の海岸に近い地域にみられる花崗岩製の逆立ち狛犬については、近隣地域で産出されない石材であり、海上輸送によって西日本方面から持ち込まれたものであろう。金沢石工の銘が刻まれていることから、加工されていない石材のまま運ばれ、金沢で彫られたと考えられる。

おわりに

加賀地方では初老記念に狛犬を奉納する例が多くみられる。狛犬は制作に時間がかかるので、奉納に間に合うよう早くから制作にとりかかる。そのため、完成日と奉納日には長期間の隔たりがある場合も多い。台座などに刻まれている日付は概ね奉納日であり、制作開始や完成の時期は特定できない。ここでは奉納日とみられる日付をそのまま造立年月日として表記した。

令和6年元日の能登半島地震によって転落した狛犬がいくつもあり、転落を免れたものでも基壇等の破損がみられる。1年以上が過ぎてもそのまま傾いているものもある。住宅やインフラ設備の復旧が最優先であるが、なるべく早期の修繕が望まれる。

逆立ち狛犬一覧(廃棄されたものも含む、薄文字表記は推測される石工)

所在地	造立年	石工	型	備考
志賀町富来領家 住吉神社	昭和37年		発展型	
七尾市小島町 曹洞宗龍門寺			準金沢型	基壇損壊
中能登町二宮 天日陰比咩神社			別系統	
羽咋市吉崎町 湍津姫神社	大正8年		発展型	畔形が転落
かほく市内日角 八幡社	昭和8年	神田嘉七	発展型	
津幡町清水 清水八幡神社	大正14年	山田興六	準金沢型	
津幡町杉瀬 八幡神社	大正3年	福嶋伊三次	金沢型	
津幡町種 出雲神社		大野正雄	発展型	
金沢市浅野本町 浅野神社	大正3年	福嶋伊三次	金沢型	
金沢市泉 国造神社	大正4年		発展型	
金沢市打木町 打木濱神社	明治29年	瀬川市良平	金沢型	
金沢市円光寺本町 白山社	大正12年		金沢型	
金沢市大額町 大額稲荷神社	明治36年	福嶋伊之助	金沢型	境内石祠前へ移設
同	平成12年	立野石材(株)	金沢型	上記の建て替え
金沢市大場町 佐那武神社	昭和6年		発展型	
金沢市大樋町 児安神社	大正13年	山本勇作	金沢型	
金沢市折谷町 磯崎神社	明治33年	(由野伊三郎)	金沢型	
金沢市堅田町 菅田別神社			準金沢型	
金沢市桂町 桂神社	昭和8年	(神田嘉七)	発展型	
金沢市神野 須天八幡神社	明治44年	(石工B)	発展型	
金沢市御供田町 御供田住吉神社	大正11年	福嶋伊三次	金沢型	
金沢市西念 出雲神社	明治5年		原型	令和元年廃棄
同	令和元年	金沢石材(株)	金沢型	上記の建て替え
金沢市四十万町 四十万八幡神社	明治44年		金沢型	
金沢市城南 藤棚白山神社	明治24年	(由野伊三郎)	金沢型	拝殿内へ移設
金沢市末町 日吉神社	大正11年	福嶋伊三次	金沢型	
金沢市高尾町 禅ヶ峯神社		福嶋伊三次	金沢型	
金沢市玉鉾町 野間神社	明治44年	山田興六	準金沢型	
金沢市俵町 八幡神社	大正9年	福嶋伊三次	金沢型	
金沢市寺町 諏訪神社	明治22年	由野伊三郎 荒谷善太郎	金沢型	
金沢市天神町 椿原天満宮	安政6年	松田七左工門	原型	畔形が転落
金沢市直江町 直江神社	大正9年	石林又…	金沢型	
金沢市中屋町 産王神社	大正13年	相森幹太郎	発展型	
金沢市鳴和町 鹿島神社	大正10年		金沢型	
金沢市額谷町 額東神社	明治44年	福嶋伊之助	金沢型	
金沢市野田町 日吉神社	大正元年	福嶋伊之助	金沢型	
金沢市東蚊爪町 須岐神社	明治19年		準原型	
金沢市東御影町 卯辰神社	慶応3年(推定)	油屋佐兵工	原型	阿形が転落
金沢市東山 宇多須神社	明治27年	福嶋伊之助	金沢型	
金沢市広岡町 平岡野神社	大正10年		金沢型	幣殿横へ移設
金沢市福増町 八幡神社	明治39年	(石工B)	発展型	基壇損壊
金沢市袋板屋町 八幡板屋神社	昭和33年		発展型	
金沢市普正寺町 八幡神社			発展型	

金沢市本多町 石浦神社 境内摂社 広坂稲荷神社	明治24年	福嶋伊之助	金沢型	
金沢市増泉 春日神社	明治15年	(由野伊三郎)	金沢型	拝殿前へ移設
金沢市南新保町 南新保八幡神社	明治23年	(福嶋伊之助)	金沢型	
金沢市南新保町 清瀧神社	大正10年	福嶋伊三次	金沢型	拝殿横へ移設
金沢市山の上町 小坂神社	大正6年	福嶋伊三次	金沢型	基壇損壊
野々市市稲荷 稲荷神社	昭和10年	相森幹太郎	発展型	
野々市市御経塚 佐那武神社	昭和6年	相森幹太郎	発展型	
野々市市上林 林郷八幡神社	大正元年		発展型	
野々市市清金 清金中宮神社	大正4年	相森幹太郎	発展型	
野々市市郷町 田中八幡神社	昭和13年	相森幹太郎	発展型	
野々市市下林 薬師日吉神社	明治28年	福嶋伊之助	金沢型	
野々市市末松 大兄八幡神社	明治39年	(石工B)	発展型	
野々市市徳用町 光松八幡神社	昭和8年	相森幹太郎	発展型	
野々市市藤平 錦橋八幡神社	昭和8年		発展型	
野々市市二日市 荒川神社	昭和5年	相森幹太郎	発展型	
野々市市本町 布市神社		福嶋伊之助	金沢型	
野々市市三日市町 郷八幡神社	昭和14年	相森幹太郎	発展型	
野々市市矢作 藤岡諏訪神社	明治24年	松田外三郎	金沢型	平成26年廃棄
同	平成26年		金沢型	上記の建て替え
白山市漆島町 熊野神社	大正11年		発展型	
白山市北島町 北島加茂神社	明治25年	新谷多吉	準金沢型	
白山市倉部町 八幡神社	明治31年	福嶋伊之助	金沢型	
白山市倉光 日吉神社	昭和10年	相森幹太郎	発展型	
白山市小上町 八幡神社	昭和3年	相森幹太郎	発展型	
白山市島田町 八幡神社	昭和10年	吉田仁三郎	準発展型	
白山市菅波町 正八幡神社	明治36年	高森	発展型	
白山市専福寺町 南郷八幡神社	明治41年		発展型	
白山市竹松町 竹松住吉神社	明治43年	八野甚吉郎	準金沢型	
白山市橋爪町 免橋神社			発展型	
白山市市八田中町 八幡神社	明治42年	由野伊三郎	金沢型	
白山市八田町 大松神社	明治39年	福嶋伊之助	金沢型	
白山市平松町 平松春日神社	昭和5年	相森幹太郎	発展型	
白山市福正寺町 高田神社	明治48年	ニシダ	準金沢型	
白山市宮永町 宮永八幡神社	昭和4年	相森幹太郎	発展型	
白山市宮丸町 檜本神社	大正6年	相森幹太郎	発展型	
白山市向島町 前田八幡神社	大正2年	福嶋伊之助	金沢型	
白山市村井新町 村井新稲荷神社		相森幹太郎	発展型	
白山市村井町 本村井神社		(福嶋伊之助)	金沢型	
白山市安吉町 山島八幡神社	大正10年	吉田仁三郎	準発展型	
白山市八ツ矢町 菅原神社		相森幹太郎	発展型	
白山市横江町 宇佐八幡神社 境内摂社 菅原社	大正3年	相森幹太郎	発展型	拝殿囲内へ移設
白山市吉田町 神田神社	明治30年	新谷多吉	準金沢型	
白山市四ツ屋町 大靱和氣神社 境内摂社 杉の宮	昭和11年	(相森幹太郎)	発展型	
白山市米永町 米永菅原神社	大正6年	中奥市郎	準金沢型	

白山市若宮 若宮八幡宮 境内摂社 白峰神社			金沢型	拝殿前へ移設
白山市若宮 貴船神社	大正 10 年	相森幹太郎	発展型	
白山市井関町 井関諏訪神社	大正 8 年		発展型	令和 3 年廃棄
白山市鹿島町 鹿島神社	明治 34 年	(石工 A)	発展型	
白山市末正町 末正春日神社		(新谷多吉)	準金沢型	
白山市安養寺町 神田白山神社	昭和 19 年	(相森幹太郎)	発展型	
白山市坂尻町 乙劔神社	大正 9 年	福嶋伊三次	金沢型	
白山市七原町 春日神社	昭和 6 年	山本太三郎 相森幹太郎	発展型	
白山市曾谷町 乙劔神社	大正 2 年	福嶋伊之助	金沢型	令和 6 年廃棄
同	令和 6 年	石川石材商事(株)	金沢型	上記の建て替え
白山市中ノ郷町 石川神社 境内摂社 鹿原八幡神社	大正 9 年	福嶋伊三次	金沢型	
白山市河内町吹上 粟島神社	昭和 14 年		準金沢型	
白山市河内町福岡 佐野神社	大正 8 年		発展型	
川北町山田先出 磐出神社	昭和 7 年	相森幹太郎	発展型	
能美市荊生町 八幡神社	昭和 8 年	中川一雄	発展型	
能美市荒屋町 荒屋神社	昭和 10 年(推定)	(相森幹太郎)	発展型	松任から移建 拝殿囲内へ移設
能美市岩内町 岩内神社	大正 8 年	福嶋伊三次	金沢型	
能美市大口町 白山神社	大正 4 年	福嶋伊三次	金沢型	
能美市坪野町 八幡神社	昭和 2 年	川端作松	準金沢型	
能美市火釜町 八幡神社	昭和 3 年	川端作松	準金沢型	
能美市仏大寺町 八幡神社	明治 41 年		金沢型	
能美市三ツ屋町 八幡神社	明治 36 年	福嶋伊之助	金沢型	
能美市宮竹町 日吉神社	明治 31 年	福嶋伊之助	金沢型	
能美市大長野町 八幡神社	大正 2 年	石野	準金沢型	
能美市小杉町 白幡神社	大正 14 年	(石野)	準金沢型	
能美市佐野町 狭野神社	明治 36 年	福嶋伊之助	金沢型	
能美市福岡町 福岡八幡神社	明治 36 年		発展型	拝殿囲内へ移設
小松市今江町 今江春日神社	明治 33 年	福嶋伊之助	金沢型	
小松市三谷町 三谷白山神社 境内摂社 神明社	明治 30 年	(石工 A)	発展型	
小松市大領町 大領神社	昭和 4 年		準金沢型	
小松市松崎町 松崎神社	昭和 46 年		準発展型	
小松市蓮代寺町 日吉神社 境内摂社 神明社			発展型	拝殿前へ移設
加賀市勅使町 白山神社			別系統	
加賀市横北町 白山神社	昭和 2 年		発展型	
富山県氷見市園 園生神社			別系統	本殿前に設置
富山県氷見市早借 八幡宮	明治 36 年	(近松二平)	金沢型	
富山県高岡市福岡町小野 八幡宮	明治 34 年	福嶋伊之助	金沢型	
富山県南砺市広安 平田社	大正 2 年	福嶋伊之助	金沢型	幣殿横へ移設
富山県富山市八尾町高熊 神明社	明治 34 年	近松二平	金沢型	
福井県あわら市牛山 神明神社	明治 36 年		不明	

加賀逆立ち狛犬の初期の作例
(明治33年までに造立されたもの、薄文字表記は推測される石工)

所在地	造立年	石工	型	備考
金沢市天神町 椿原天満宮	安政6年	松田七左工門	原型	咩形が転落
金沢市東御影町 卯辰神社	慶応3年(推定)	油屋佐兵工	原型	阿形が転落
金沢市西念 出雲神社	明治5年		原型	令和元年廃棄
金沢市増泉 春日神社	明治15年	(由野伊三郎)	金沢型	拝殿前へ移設
金沢市東蚊爪町 須岐神社	明治19年		準原型	
金沢市寺町 諏訪神社	明治22年	由野伊三郎 荒谷善太郎	金沢型	
金沢市南新保町 南新保八幡神社	明治23年	(福嶋伊之助)	金沢型	
金沢市城南 藤棚白山神社	明治24年	(由野伊三郎)	金沢型	拝殿内へ移設
金沢市本多町 石浦神社 境内摂社 広坂稲荷神社	明治24年	福嶋伊之助	金沢型	
野々市市矢作 藤岡諏訪神社	明治24年	松田外三郎	金沢型	平成26年廃棄
白山市北島町 北島加茂神社	明治25年	新谷多吉	準金沢型	
金沢市東山 宇多須神社	明治27年	福嶋伊之助	金沢型	
野々市市下林 薬師日吉神社	明治28年	福嶋伊之助	金沢型	
金沢市打木町 打木濱神社	明治29年	瀬川市良平	金沢型	
小松市三谷町 三谷白山神社 境内摂社 神明社	明治30年	(石工A)	発展型	
白山市吉田町 神田神社	明治30年	新谷多吉	準金沢型	
白山市倉部 八幡神社	明治31年	福嶋伊之助	金沢型	
能美市宮竹 日吉神社	明治31年	福嶋伊之助	金沢型	
小松市今江町 今江春日神社	明治33年	福嶋伊之助	金沢型	
金沢市折谷町 磯崎神社	明治33年	(由野伊三郎)	金沢型	
白山市村井町 本村井神社	(明治30年頃?)	(福嶋伊之助)	金沢型	
白山市末正町 末正春日神社	(明治30年頃?)	(新谷多吉)	準金沢型	

加賀逆立ち狛犬の主要石工の制作期間

石工	逆立ち狛犬制作期間(下段薄文字は推測されるものも含む期間)
由野伊三郎(金沢型) 銘あり2対+推測3対	明治22年→→→→明治42年 明治15年→→→→→明治42年
福嶋伊之助(金沢型) 銘あり17対+推測2対	明治24年→→→→→大正2年 明治23年→→→→→大正2年
福嶋伊三次(金沢型) 銘あり12対	大正3年→大正11年
相森幹太郎(発展型) 銘あり20対+推測3対	大正3年→→→→→昭和14年 大正3年→→→→→昭和19年

逆立ち狒犬の分類

加賀逆立ち狒犬

原型…飛翔獅子。不安定な自然石の台座。幕末～明治初頭。
金沢市に3対みられる。

準原型…飛翔獅子。一体型足座。原型の継承と考えられる。
金沢市に1対みられる。

金沢型…金沢石工集団による代表作。石工の個性による造形の違いが少ない。
由野伊三郎、福嶋伊之助、福嶋伊三次など。金沢市を中心に数多くみられる。

準金沢型…金沢型の継承。金沢型に類似するが、各々の石工の個性が出ている。
新谷多吉、川端作松など。金沢市、白山市、能美市などにみられる。

発展型…金沢型からの発展。準金沢型よりも石工の個性が強く出ている。
相森幹太郎など。石川県内の広範囲にみられる。

準発展型…準金沢型からの発展。石工の個性が強く、金沢型とは大きく異なる。
吉田仁三郎など。白山市、小松市にみられる。

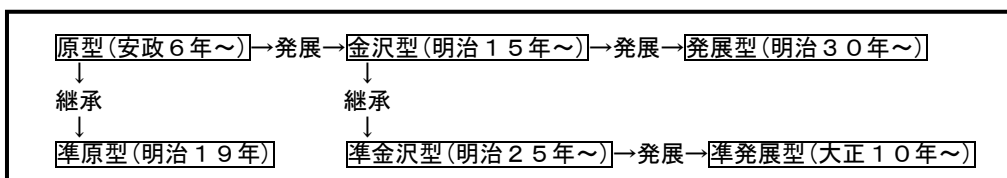
別系統(加賀逆立ち狒犬に属さない)

加賀逆立ち狒犬とは無関係の別系統とみられる。造形は大きく異なる。
中能登町と加賀市に各1対、富山県氷見市に1対みられる。

系統不明(加賀逆立ち狒犬との関連不明)

加賀逆立ち狒犬との関連があるのかを確認できない。
福井県あわら市に1対みられる。

加賀逆立ち狒犬の系統(推測)





金沢市天神町 椿原天満宮(原型、安政6年造立、石工:松田七左工門)…震災前に撮影



金沢市東御影町 卯辰神社(原型、慶応3年造立と考えられる、石工:油屋佐兵工)…震災前に撮影



金沢市西念 出雲神社(原型、明治5年造立、令和元年廃棄)…建て替え前の写真:諸野康雄氏撮影



金沢市増泉 春日神社(金沢型、明治15年造立、石工:由野伊三郎と推測、拝殿前へ移設)



金沢市東蚊爪町 須岐神社(準原型、明治19年造立)



金沢市寺町 諏訪神社(金沢型、明治22年造立、石工:由野伊三郎・荒谷善太郎)



金沢市南新保町 南新保八幡神社(金沢型、明治23年造立、石工:福嶋伊之助と推測)



金沢市城南 藤棚白山神社(金沢型、明治24年造立、石工:由野伊三郎と推測、拝殿内へ移設)



金沢市本多町 石浦神社境内摂社の広坂稻荷神社(金沢型、明治24年造立、石工:福嶋伊之助)



白山市北島町 北島加茂神社(準金沢型、明治25年造立、石工:新谷多吉)



金沢市東山 宇多須神社(金沢型、明治27年造立、石工:福嶋伊之助)



野々市市下林 薬師日吉神社(金沢型、明治28年造立、石工:福嶋伊之助)



金沢市打木町 打木濱神社(金沢型、明治29年造立、石工:瀬川市良平)



小松市三谷町 三谷白山神社境内摂社の神明社(発展型、明治30年造立)



白山市吉田町 神田神社(準金沢型、明治30年造立、石工:新谷多吉)



白山市倉部 八幡神社(金沢型、明治31年造立、石工:福島伊之助)



小松市今江町 今江春日神社(金沢型、明治33年造立、石工:福島伊之助)



金沢市折谷町 磯崎神社(金沢型、明治33年造立、石工:由野伊三郎と推測)



富山県富山市八尾町高熊 神明社(金沢型、明治34年造立、石工:近松二平) 尾田武雄氏撮影



白山市鹿島町 鹿島神社(発展型、明治34年造立)



富山県氷見市早借 八幡宮(金沢型、明治36年造立、石工:近松二平と推測)



能美市福岡町 福岡八幡神社(発展型、明治36年造立)



福井県あわら市牛山 神明神社(加賀逆立ち狛犬との関連不明、明治36年造立)



白山市市八田中町 八幡神社(金沢型、明治42年造立、石工:由野伊三郎)



白山市福正寺町 高田神社(準金沢型、明治42年造立、石工:ニシダ)



白山市竹松町 竹松住吉神社(準金沢型、明治43年造立、石工:八野基吉郎)



金沢市神野町 須天八幡神社(発展型、明治44年造立)



金沢市玉鉾町 野間神社(準金沢型、明治44年造立、石工:山田興六)



野々市市上林 林郷八幡神社(発展型、大正元年造立)



津幡町杉瀬 八幡神社(金沢型、大正3年造立、石工:福嶋伊三次)



野々市市清金 清金中宮神社 (発展型、大正 4 年造立、石工: 相森幹太郎)



白山市河内町福岡 佐野神社 (発展型、大正 8 年造立)



白山市安吉町 山島八幡神社 (準発展型、大正 1 0 年造立、石工: 吉田仁三郎)



能美市火釜町 八幡神社(準金沢型、昭和3年造立、石工:川端作松)



川北町山田先出 磐出神社(発展型、昭和7年造立、石工:相森幹太郎)



かほく市内日角 八幡社(発展型、昭和8年造立、石工:神田嘉七)



能美市荒屋町 荒屋神社(発展型、昭和10年造立と考えられる、石工:相森幹太郎と推測)



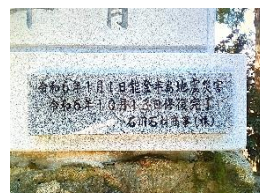
金沢市袋板屋町 八幡板屋神社(発展型、昭和33年造立)



野々市市矢作 藤岡諏訪神社(金沢型、平成26年建て替え)



金沢市西念 出雲神社(金沢型、令和元年建て替え、金沢石材)



白山市曽谷町 乙剱神社(金沢型、令和6年建て替え、石川石材商事)



白山市村井町 本村井神社(金沢型、明治30年頃造立と思われる、石工:福嶋伊之助と推測)



白山市末正町 末正春日神社(準金沢型、明治30年頃造立と思われる、石工:新谷多吉と推測)



白山市若宮 若宮八幡宮境内摂社の白峰神社(金沢型、造立年不明)



金沢市高尾町 禅ヶ峯神社(金沢型、造立年不明、石工:福嶋伊三次)



金沢市堅田町 菅田別神社(準金沢型、造立年不明)



津幡町種 出雲神社(発展型、造立年不明、石工:大野正雄)



七尾市小島町 曹洞宗龍門寺(準金沢型、造立年不明)



富山県氷見市園 園生神社 (加賀逆立ち狛犬とは無関係の別系統とみられる、造立年不明)



中能登町二宮 天日陰比咩神社 (加賀逆立ち狛犬とは無関係の別系統とみられる、造立年不明)



加賀市勅使町 白山神社 (加賀逆立ち狛犬とは無関係の別系統とみられる、造立年不明)